

【DRニュース・001】：デジタル・リアリティーな業界の最新動向のニュースを発信

2015年10月12日発信

これから、私たちを取り巻くデジタル・リアリティーな業界の最新動向ニュースを探究して行きます。

まず、初めに、ITとは、私たちの社会を支える重要なインフォメーション・テクノロジーです。

インターネットやスマートフォンなどは、日々の生活に不可欠なサービスになってきています。

また、家電、自動車、金融、通販、ファッションなどにも最新のIT技術が使用され、私たちの生活を豊かにしています。このようなテクノロジーやサービスを担っている業界がIT（情報技術）業界です。

では、情報技術を追求する「IT業界」とは、一体どのような業態なのでしょう？

情報技術や処理をサービスする業界では、ハードウェア業界とソフトウェア業界の両方をカバーしていることが多く、ハードウェアの選定から、データベースの構築、ソフトウェアの開発・管理・保守のすべての業務を含みます。また、幅広い業務内容や現在抱えている課題を分析し、業務効率化、課題の解決、競合企業に対する戦略をも視野に入れたコンサルティングサービスを提供する場合があります。

私たちを取り巻く業界は、多くの業種や職種が絡み合っており、技術やサービスが進化するにつれ年々業態が複雑化しています。また、情報サービスが煩雑に絡み合っているため、私たちが直面するシステムの開発でも往々にして、「既存のシステム」の維持メンテや運用などの改善作業に従事しなければならない場面も多々あります。

そんな中で、幅広い業務の知識と最新の技術動向や社会の変化をスピーディに吸収する姿勢が必要となり、「業務知識がある」「方法論を知っている」「業務モデルを扱える」、「ユーザと良好な関係を保つ」、そんな、人材を確保、育成することが重要な課題となって来ています。

先日、ITpro EXPO 2015で”NTTデータ”の副社長（椎名さんはシステムと一緒に考えた朋友です）の講演を聴いてきました。弊社が発展し続けるためには、これから何が必要なのか？講演内容や記事を引用し、インターネットを検索しながら、探っていきます。

企業には、ZERO to ONE（君はゼロから何を生み出すか？；Pay-Palのピーター・ティール著）の姿勢が欠かせない。…中略… 現状に甘んじないことが、長寿企業となる大きな要因だ。（椎名副社長）

（日本には創業100年以上の長寿企業が約2万6000社あります。これらの企業が長年に渡ってビジネスを継続できる理由を探ったアンケートでは、6割以上の企業が“変革”に積極的だと回答しています）

(1)「お客様を大切に思う心」から挑戦へ

例えば、和菓子で有名な虎屋は、「TORAYA CAFE（トラヤカフェ）」というカフェを新たに展開するなど“挑戦”を続けています。

ちょうど、10月2日に「虎屋 17 代目社長の赤坂本店一時休業のあいさつ文」が HP に掲載されていました。その文面に“挑戦”につながる虎屋の原点が伺えるので、文章の一部を引用してみます。

赤坂本店、および虎屋菓寮 赤坂本店は、10月7日をもって休業いたします。
室町時代後期に京都で創業し、御所御用を勤めてきた虎屋は、明治2年(1869年)、東京という全く新しい土地で仕事を始める決断をしました。赤坂の地に初めて店を構えたのは明治12年(1879年)。明治28年(1895年)には現在東京工場がある地に移り、製造所と店舗を設けました。

昭和7年(1932年)に青山通りで新築した店舗は城郭を思わせるデザインでした。…中略…「行灯（あんどん）」をビルのモチーフとし、それを灯すように建物全体をライトアップしていた時期もありました。周囲にはまだ高いビルが少なかった時代で、当時 大学生だった私は、赤坂の地にぽっと現れた大きな灯り(シンボル)に、心はずませたことを思い出します。…中略…

この店でお客様をお迎えした51年のあいだ、^{すばらしいであい めぐまれ}多くの素晴らしい出逢いに恵まれました。

- 三日にあげずご来店くださり、きまってお汁粉を召し上がる男性のお客様。
- 毎朝お母さまとご一緒に小形羊羹を1つお買い求めくださっていた当時幼稚園生でいらしたお客様。
(ある時おひとりでお見えになったので、心配になった店員が外へ出てみると、お母さまがこっそり隠れて見守っていらっしゃったということもありました)
- 車椅子でご来店くださっていた、100歳になられる女性のお客様。
(入院生活に入られてからはご家族が生菓子や干菓子をお買い求めくださいました。お食事ができなくなられてからも、弊社の干菓子をくずしながらお召し上がりになったと伺っています)

このようにお客様とともに過ごさせて頂いた時間をここに書き尽くすことは到底できませんが、おひとり、おひとりのお姿は、強く私たちの心に焼き付いています。

3年後にできる新しいビルは、**ゆっくりお過ごしになる方、お急ぎの方、外国の方など** あらゆるお客様にとって、**さらにお使い頂きやすいものとなるよう考えています。**

新たな店でもたくさんの方々との出逢いを楽しみにしつつ、
これまでのご愛顧に心より御礼申し上げます。 ありがとうございます。

・・・ **和菓子の店舗を営む上で、「大切に思う気持ち」と「新たなもの」を感じ取ってください。**

(2) 「不易流行(ふえきりゅうこう)」とは

激動の時代を生きていく上で、是非覚えておきたい言葉がもうひとつあります。

「不易流行」は、江戸時代の俳人の松尾芭蕉が『奥の細道』の旅の間に体得した概念です。

俳諧に対して説かれた概念ですが、学問・文化や人間形成にもそのまま当てはめることができます。

「不易を知らざれば 基（もと）立ちがたく、流行を知らざれば 風（かぜ）新たならず」、
即ち、不変の真理を知らなければ 基礎が確立せず、変化を知らなければ 新たな進展がない。

- ◆ 「不易」は変わらないこと。 即ち、どんなに世の中が変化し状況が変わっても絶対に変わらないもの、変えてはいけないものということで、「不変の真理」を意味します。
- ◆ 逆に、「流行」は変わるもの。 社会や状況の変化に従って、どんどん変わっていくもの、あるいは変えていかなければならないものことです。

「不易」は「流行」の中にあり、「流行」が「不易」を生み出します。また、この「不易流行」のシステムによって、学問や文化が発展してきました。その「不易」を基礎として、刻々と「流行」する森羅万象を捉えることにより、新たな「知」が獲得され、その中からさらに「不易」が追及されていきます。

「不易」とは、時代を超えて常に人を感動させる永遠性をいい、「流行」とは、時代の変化に応じて進展する新しさをいいます。また、一人ひとりの人間も「不易」と「流行」の狭間で成長していきます。

俳諧の美のありかたについての対照的な理念ですが、不易と流行の両者は、不即不離の関係にあるとともに「風雅の誠」から出たもので、根本においては一つのものでされています。

昨今は、「不易」より「流行」が重視される風潮がありますが、社会、特に企業からは「即戦力になる人材」や「直ぐに役に立つ知識」が期待されるようになりました。しかし、「即戦力になる人材」は往々にして基礎がしっかりしていないために寿命が短いことが多く、「直ぐに役立つ知識」は、今日、明日に役に立っても、明後日には陳腐化してしまいます。

激動する現代、目先の価値観にとらわれ、短絡的に実用的なものを求められがちですが、このような時代だからこそ「不易流行」の真髄（誠）を、皆さんと一緒にじっくり考え、議論をして、前向きに学んで行きたいと思えます。

まずは、弊社の理念（個人の能力の成長と共に会社の発展を願い、常に変革に挑戦し続けて、豊かで美しい社会づくりに貢献します）に沿って、今一番大切なものは何か？をテーマに選定し、業界の最新動向ニュースを発信していきます。皆さんと一緒に“考える知識”を取り入れていきましょう。